

# 新約聖書キリスト教の視点から見た現代ユダヤ教の包括的な批判

この文書は、ミシュナー、タルムード、および後世のラビ文献に示されている現代（ラビ）ユダヤ教と、新約聖書のキリスト教（聖書に示されているもの）との間の主要な矛盾をまとめ、統合したものです。また、ラビの伝統における逸脱、行き過ぎ、および明らかな矛盾点も強調しています。現代ユダヤ教とは、第二神殿崩壊後（西暦 70 年以降）のラビ・ユダヤ教を指し、口伝律法（西暦 200 年頃にミシュナーで成文化され、西暦 500 年頃にゲマラ／タルムードで拡張されたもの）を成文律法と並んで神聖で拘束力のあるものとして位置づけています。

この分析は、言及された聖典と文献のみに基づいており、和解不可能な相違点と潜在的な欠陥を強調している。ユダヤ教の学者たちは、これらの問題を解決するための解釈（例えば、ピルプル、文脈化、タルムードの議論の弁証法的な性質など）を提示しているが、この批判は新約聖書の視点を採用し、ラビの発展を、神の言葉を無効にし、成就したメシアであるイエスを拒絶し、恵みを律法主義に置き換える人間の伝統として捉えている。

## 1. ラビ的ユダヤ教と新約聖書との根本的な矛盾

これらの点は、ラビの教えが新約聖書の教義と直接的に矛盾したり、再解釈したりする根本的な相違点を示しており、しばしばイエスとその弟子たちを異端者やミニム（宗派主義者）として描いている。キリスト教の観点から見ると、ラビ的ユダヤ教は、イエスを神聖なメシアであり最終的な贖罪者とする聖書の啓示を改変する、キリスト後の拒絶として現れる。

### メシアの正体と役割

- 新約聖書：「イエスは彼らに言われた。『では、あなたがたはわたしをだれだと言うのか。』シモン・ペトロが答えて言った。『あなたはキリスト、生ける神の子です。』」（マタイによる福音書 16:15-16）

- イエスは、まず苦難の僕として預言を成就し（イザヤ書 53 章）、死んで復活し、将来王として再臨する（黙示録 19:11-16）。「このイエスは、あなたがた建築者たちが捨てた石ですが、隅の親石となったのです。」（使徒言行録 4:11、詩篇 118:22 を引用）
- ラビ的ユダヤ教（タルムード／ミシュナー）：メシアは、神殿を再建し、すべての流浪の民を集め、普遍的な平和を確立し、トーラーの遵守を世界中で強制的に行う必要がある（マイモニデスの 13 の原則、サンヘドリン 99a から派生）。イエスはこれらのことを目に見える形で何も行わなかったので、メシアであるはずがない。サンヘドリン 98a は、2 人の潜在的なメシア、すなわちダビデの子（王）またはヨセフの子（苦しみ、殺される）について述べているが、勝利者が到来するまでは、時代は苦難の時代のままである。サンヘドリン 43a は、「イエシュ」を魔術とイスラエルを惑わした罪で処刑した。
- 矛盾：新約聖書は、イエスを苦しみ（初臨）を通して贖罪を果たし、再び統治するために戻ってくる成就したメシアであると宣言している。一方、ラビ的ユダヤ教はこの「二度の再臨」モデルを拒否し、純粹に人間的な政治的救世主を待ち望み、「イエシュア」を偽預言者として呪う。

### メシアの神性と神の子としての地位

- 新約聖書（聖書）：「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。…そして言は肉となった。」（ヨハネ 1:1,14）「トマスは答えて言った。『わが主、わが神よ 』」（ヨハネ 20:28）イエスは受肉した神として崇拝を受け入れた。
- ラビ的ユダヤ教：厳格な一神教では、受肉や神の子としての地位は一切認められません。シェマ（申命記 6:4）は、いかなる複数形も排除するものと解釈されます。人間が神であると主張することは偶像崇拜（アヴォダー・ザラー）です。タルムードの記述では、処女懐胎（シャバット 104b：イエスは姦通した女の子）を嘲笑し、キリスト教徒を偶像崇拜者（オヴデイ・アヴォダー・ザラー）として呪っています。
- 矛盾：新約聖書はメシアの神性を肯定している（イザヤ書 9 章 6 節「力ある神」で預言されている）が、ラビ的ユダヤ教はそれを冒瀆として非難し、そのような主張に対して遡及的に死刑を適用している（サンヘドリン 43a）。

### 十字架刑、復活、そして贖罪

- 新約聖書：「キリストは聖書に書いてあるとおり、私たちの罪のために死なれ、葬られ、三日目に復活されました。」（コリント人への手紙第一 15:3-4）「血を流すことがなければ、罪の赦しは

ありません。」(ヘブライ人への手紙 9:22) イエスは究極のいけにえです。「彼は一度限り現れ、ご自身をいけにえとしてささげることによって、罪を取り除くために現れました。」(ヘブライ人への手紙 9:26)

- ラビ的ユダヤ教：イエスの磔刑を贖罪やメシア的行為とは認めない。タルムード（サンヘドリン 43a）によれば、イエスは過越祭前夜に魔術の罪で石打ちにされ、その後絞首刑に処せられたが、復活はなかった。神殿崩壊後の贖罪は、悔い改め、祈り、そして慈善のみによってなされる（ヨマ 86b：「悔い改めはすべての罪を贖う」、ベラホット 26b：祈りは犠牲に取って代わり、ホセア 14:3「私たちの唇の雄牛」を引用）。
- 矛盾：新約聖書はイエスの血を永遠の贖罪と宣言し、神殿の儀式の必要性を終わらせた。一方、ラビ的ユダヤ教はイエスの死と復活を否定し、血を伴わない贖罪を主張し、キリストの犠牲を「不要」とした。

### 救い：恵みか功績か

- 新約聖書：「あなたがたは恵みによって、信仰によって救われたのです。行いによるものではありません。だれも誇るようなないようにするためです。」(エフェソ 2:8-9)「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。」(ローマ 4:3、創世記 15:6 からの引用)
- ラビ的ユダヤ教：救済／来世への分け前は、ミツヴァの遵守、悔い改め、善行が悪行を上回ることによる功績にかかっている（ミシュナー・サンヘドリン 10:1：「イスラエルの民は皆、来世に分け前がある」ただし、特定の罪人を除く）。審判の日の正義の天秤（キドゥッシン 39b、ロシュ・ハシャナ 16b-17a）。
- 矛盾：新約聖書はキリストの完成された業への信仰による救いを教えているが、ラビ的ユダヤ教は人間の努力と律法の遵守を重視し、事実上、恵みを無効にしている。

### 口伝律法とラビ伝承の権威

- 新約聖書（聖書）：イエスは聖書に優先する伝統を非難した。「あなたがたは、自分たちが伝えてきた言い伝えによって、神の言葉を無効にしている。」(マルコ 7:13)「律法学者たち、ファリサイ派の人々よ、あなたがたは災いだ。あなたがたは律法のより重要な事柄、すなわち正義と憐れみと誠実をないがしろにしている。」(マタイ 23:23)
- ラビ的ユダヤ教：口伝律法は神聖なものであり、成文律法とともにシナイ山でモーセに授けられ、永遠に拘束力を持つ（ミシュナー・ピルケイ・アヴォット 1:1：「モーセはシナイ山で律法

を受け取り、それをヨシュアに…大集会の人々に伝えた」。ラビの裁定は律法を覆すことさえある（ババ・メツィア 59b：多数決でバト・コルが敗北。神は微笑み、「私の息子たちが私に勝利した」）。

- 矛盾：新約聖書は人間の伝統を重荷となる付加物として明らかにしているが、ラビ的ユダヤ教はそれらを神聖な地位にまで高めており、申命記 4 章 2 節（「わたしが命じる言葉に、あなたは付け加えてはならない」）に真っ向から違反している。

## 2. ラビの伝統における逸脱、行き過ぎ、および明白な矛盾

これらは、ラビの文献が成文律法と矛盾しているように見える箇所、人間の権威を神よりも上位に置いている箇所、あるいは未解決の矛盾を抱えている箇所を浮き彫りにしている。ラビの学者たちは、弁証法や「どちらも生ける神の言葉である」という主張によってこれらの矛盾を解決しようとするが、聖書的な観点から見ると、それらは人間の創作であることが明らかになる。

### ラビの権威を神とトーラーの上に高めること

- トーラー：「わたしが命じる言葉に付け加えてはならない。また、そこから減らしてもならない。」（申命記 4:2）「教えと証しに立ち返れ。もし彼らがこの言葉に従って語らないなら、彼らには光がない。」（イザヤ書 8:20）
- タルムードのババ・メツィア 59b には、ラビ・エリゼルの奇跡（イナゴマメの木が根こそぎ引き抜かれたり、壁が曲がったり）が天の声によって確認されたことが記されているが、ラビ・ヨシュアは「それは天にはない」（申命記 30:12）と宣言し、多数決が支配し、神は「私の子供たちが私に勝った」と笑う。
- 逸脱：ラビたちは神の徴候やトーラーそのものを無視し、神が従うべき権威を主張する。これは聖書的な観点からすれば冒瀆行為である。

### 金銭的補償か、それとも文字通りの報復か

- トーラー：「目には目を、歯には歯を。」（出エジプト記 21:24、レビ記 24:20、申命記 19:21）
- タルムード：金銭的な支払いのみを解釈し（ババ・カンマ 83b-84a）、文字通りの物理的な報復は決して含まない。

- 逸脱：トーラーの明確な文言を直接的に緩和しており、カラ派とキリスト教徒からは聖書が無効にするものとして非難されている。

### 神殿後の無血贖罪

- トーラー：「肉の命は血の中にある。血こそが贖いとなる。」（レビ記 17:11）
- タルムード：神殿崩壊後、「悔い改めは罪を償う」（ヨマ 86b）；義人の死は罪を償う（モエド・カタン 28a）；慈善と苦しみは罪を償う。
- 逸脱点：トーラーが血を重視していることに矛盾する。新約聖書はキリストにおいてそれを成就している。

### タルムードにおけるイエス（イエシュ）の扱い

- 歴史上のイエスが奇跡を行ったことを認めているが、それを魔術によるものとし（サンヘドリン 43a、107b）、イスラエルを惑わしたとして処刑を主張し、煮えたぎる糞便で罰する様子を描写している（ギッティン 57a）。
- 逸脱：イエスの存在と奇跡を暗黙のうちに認めているが、神起源を否定しており、真の預言者に関する自身の基準（申命記 13 章、18 章）と矛盾している。

### 未解決の議論と矛盾

- ヒレル派とシャマイ派は、どちらも「生ける神の言葉」と呼ばれる数百の律法について意見が異なっているが、一方が優勢である（エルビン 13b）—— 神の真理はどのようにして矛盾するのだろうか？
- メシアの到来時期：ある者は固定されていると言い、またある者は功績によると言う（サンヘドリン 97b-98a）。
- これらの緊張関係は、神の啓示というよりも、人間の憶測を示唆している。

### その他の例：成文律法の命令を覆す特定のラビのタカノット

これらのラビの制定法（タカノット）は、実際のまたは経済的な理由から、トーラーの明確な命令を意図的に回避または無効化するものである。

- 長期休暇中の債務免除

- トーラー：「七年ごとに、あなたは債務の免除を与えなければならない。…すべての債権者は、貸した金を免除しなければならない。」（申命記 15:1-3）
- ラビの見解：ヒレルのプロスブルは債務を裁判所に移管し、徴収を可能にする（ミシュナー・シェヴィート 10:3、ギッティン 36a）。
- 安息日続ける
  - トーラー：荷物を運ぶことは禁じられている（エレミヤ書 17:21-22、出エジプト記 16:29）。
  - ラビの教え：エルヴは架空の私的領域を作り出す（ミシュナー・エルヴィン）。
- 過越祭におけるハメツの除去
  - トーラー：「あなた方は家からパン種を取り除かなければならない。」（出エジプト記 12章 15 節）
  - ラビの見解：「非ユダヤ人にハメツを『売る』ことは、法的虚構である。」
- 死刑執行が不可能に
  - トーラー：反抗的な息子、安息日の違反などに対する死刑規定（申命記 21:18-21、出エジプト記 31:14）
  - タルムード：条件があまりにも厳しすぎて「決して起こらなかった」（サンヘドリン 71a）。
- 安息日に火を灯すこと
  - トーラー：「安息日には火を焚いてはならない。」（出エジプト記 35:3）
  - ラビの教え：あらかじめ火を灯したろうそくの使用と暖房を許可する（労働の種類を区別するため）。

これらの逸脱行為は、イエスの「あなたがたは自分たちの言い伝えによって神の言葉を無効にしている」（マルコ 7:13、マルコ 7:9-13 のコルバン誓約を参照）という非難を反映している。

### 3. 全体的な批判：神学のおよび論理的な意味合い

ラビ的ユダヤ教は、イエスと神殿の破壊（イエスが予言した、マタイ 24:2）を拒絶した後、生き残りのための手段として出現した。口伝律法と人間の功績を重視することで、イエスとパウロが律法主義

的な束縛として非難した体系を作り出した（マタイ 23 章、ガラテヤ 3:10-11）。論理的に言えば、タルムードが以前の聖書を肯定しながらも、イエスのしるし（魔術として）を認めつつも、イエスを排除するように再解釈するならば、それは偽証である。ラビが神を「打ち負かす」といった内部的な行き過ぎは、聖書の不変の真理、「イエス・キリストは昨日も今日も、そして永遠に変わることのない方です」（ヘブライ 13:8）と対照的である。これは、ラビの指導者たちを、イエスが警告した「盲目の案内人」として位置づけ、モーセと預言者によって予言された真のメシアからイスラエルを遠ざけることになる。

#### 4. 仮説：イエスがファリサイ派／律法学者に語った聖書の言葉に基づき、現代のラビ派ユダヤ人にイエスが何と言うか

「蛇ども、毒蛇の子孫どもよ、どうして地獄の刑罰を免れることができるのか。」（マタイによる福音書 23:33）

「偽善者である律法学者たち、ファリサイ派の人々よ、あなたがたは災いだ。あなたがたは人々の目の前で天の御国を閉ざし、…あなたがたはイエスを自分たちよりも二倍も地獄の子にしている。」（マタイによる福音書 23:13-15）

「あなたがたは神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを守っている。…あなたがたは、自分たちの言い伝えを確立するために、神の戒めを巧みに拒絶しているのだ！」（マルコによる福音書 7:8-9,13）

「イザヤは正しかった。『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを礼拝するのはむなしい。彼らは人間の戒めを教えとして教えている。』」（マタイによる福音書 15:7-9）

「わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。」（ヨハネによる福音書 14:6）

「あなたがたは聖書を調べている。それは、聖書の中に永遠の命があると思っているからである。そして、聖書はわたしについて証しているのに、あなたがたは命を得るためにわたしのところに来ようとしない。」（ヨハネによる福音書 5:39-40）

「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」（マタイによる福音書 11:28）

## 5. 仮説：使徒たちが聖書の言葉に基づいて現代のラビ派ユダヤ人に何と うだろうか

パウロ（元ファリサイ派）：

「兄弟たち、私の心からの願い、そして彼ら（イスラエル）のために神に祈っていることは、彼らが救われることです。私は彼らについて証言しますが、彼らは神に対する熱心さを持っていますが、それは正しい知識に基づくものではありません。なぜなら、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を確立しようとして、神の義に従わなかったからです。」（ローマ 10:1-3）

「それでは、何と云えばよいのでしょうか。異邦人は…義を得た…しかしイスラエルは…成功しなかった…なぜなら彼らは信仰によってではなく、行いによって義を追求したからである。」（ローマ 9:30-32）

「愚かなガラテヤ人たちよ（律法主義者たちへ）！だれがあなたたちを惑わしたのか？…あなたたちは律法の行いによって御霊を受けたのか、それとも信仰による聞くことによって受けたのか。」（ガラテヤ 3:1-2）

「もしあなたがたが割礼（あるいはラビの功績）を受け入れるなら、キリストはあなたがたにとって何の益にもならないでしょう…律法によって義とされようとするあなたがたは、キリストから離れてしまっているのです。」（ガラテヤ 5:2-4）

ピーター：

「彼（イエス）を通して、信じる者は皆、モーセの律法では解放されなかったすべての束縛から解放されるのです。」（使徒言行録 13:39、ユダヤ人への手紙）

ジョン：

「イエスがキリストであることを否定する者以外に、偽り者とは誰でしょうか。父と子を否定する者こそ、反キリストです。」（ヨハネの手紙一 2:22）

ジュード：

「ひそかに忍び込んできた者たちがいます。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放蕩に歪め、私たちの唯一の主であり救い主であるイエス・キリストを否定する者たちです。」（ユダ 4）

使徒たち（その多くはかつて律法を守っていたユダヤ人だった）は、ラビたちがイエスの贖罪を否定し、口伝律法を重んじるようになったことを、自分たちが逃れてきた行いによる義認という呪いその

ものと捉えた。

## 6. 仮説：旧約聖書の預言者たちが、聖書の言葉に基づいて現代のラビ派ユダヤ人に何を語るだろうか

モーゼ：

「わたしが命じる言葉に付け加えてはならない。また、そこから減らしてもならない。」（申命記 4:2）

「わたしは彼らの兄弟の中から、あなた（モーゼ）のような預言者を彼らのために起こす。…わたしの名によって語るわたしの言葉に耳を傾けない者は、わたし自身はその責任を問うであろう。」（申命記 18:18-19 — イエスにおいて成就、使徒行伝 3:22-23）

イザヤ：

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれた…力ある神、永遠の父よ。」（イザヤ書 9:6）

「彼は私たちの罪のために刺し貫かれた…主は私たちすべての罪を彼に負わせた。」（イザヤ書 53:5-6 — ラビによるイスラエルの再解釈は新約聖書では否定されている）

エレミヤ：

「見よ、わたしが新しい契約を結ぶ日が来る。それは彼らの先祖たちと結んだ契約とは異なる。」（エレミヤ書 31:31-32 — キリストの血によって成就した、ヘブライ人への手紙 8:8-13）

「預言者たちはわたしの名によって偽りを預言する…彼らは自分の心からの幻を語る。」（エレミヤ書 23:16,25）

マラキ（旧約聖書最後の預言者）：

「わたしのしもべモーゼの律法を思い起こせ…見よ、わたしは主の大いなる恐るべき日の前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。」（マラキ書 4章 4-5節 — 洗礼者ヨハネにおいて成就、マタイによる福音書 11章 14節）

デビッド：

「主はわが主に言われた。『わたしの右の座に着きなさい。』」（詩篇 110:1 — イエスはご自身にこの言葉を当てはめられた。マタイによる福音書 22:41-46）

「御子に口づけせよ。さもないと、御子は怒るであろう。…御子に避難する者はみな幸いである。」(詩篇 2:12)

預言者たちは、ラビによる追加、メシア預言の再解釈、そして神の苦難の僕を拒絶することを、モーセとエレミヤが非難した欺瞞、すなわち律法への追加、モーセのような預言者(イエス)の拒絶、そして神が決して変更しないと誓った永遠の契約の破棄(詩篇 89:34、105:8-10)とみなした。

この改訂版文書は、モーセと預言者からイエスと使徒に至るまで、聖書全体を通して、永遠のメシアを軽視し、神の恵みを人間の伝統に置き換え、礎石を拒絶するあらゆる体制に反対する、より包括的な聖書的合唱を提示する。「イエス・キリストは、昨日も今日も、そして永遠に変わることはない方です。あらゆる異端の教えに惑わされてはいけません。」(ヘブライ人への手紙 13:8-9)